

第 2 回平群町第 6 次総合計画等検討委員会での意見等まとめ

項	区分	意見／指摘／質問など	所管課
1	委員	待機児童 2 名について、何歳児で出ているのか。	福祉こども課
	事務局	0～2 歳児の児童受け入れに十分な保育士が確保できず、低年齢の待機児童が発生しやすい状態になっている。	
	所管課	9 月 1 日現在の待機児童は、0 歳児 1 名、1 歳児 3 名・3 歳児 1 名の計 5 名である。	
2	委員	施設ではなく、保育士の確保が問題になっているのか。	教育委員会
	事務局	今までは空き教室などを利用し、園児の受け入れに対応してきたが、令和元年度より保育の無償化が始まったことで児童が増加し、低年齢の児童の部屋がひっ迫している状況である。待機児童が出ていることについては今後の課題となっている。	
	所管課	待機児童が出ている主な要因は必要な保育教諭が不足していることだと考えている。 また、特別支援園児が毎年増加傾向にあり、加配の保育教諭の確保も今後必要である。 待機児童（入所保留）を解消するため、施設規模、保育室の床面積、年齢ごとの園児数、及び職員の配置基準に基づき、毎年度、可能な限り、子どもの受け入れを行っている。	
3	委員	中学生アンケートで半数が「大人になったら平群町に住みたくない」という回答となったことは見過ごせない問題である。「他に住んでみたい」「楽しめる施設がない」といった単純な理由ではなく、もっと深い理由があるように思う。理由をもっとはつきりさせなければならないのではないか。	まち未来推進室
	事務局	「住み続けたくない」という回答が多くなっている点について、自由記述の回答を確認したところ、「都会に住みたい」というような意見がみられた。その他具体的な内容についても整理する。また「住み続けたい」「住み続けたくない」とそれぞれ回答した中学生が、まちの良いところ、悪いところをどのように考えているかについてクロス分析を進め、中学生が「住み続けたい」といった意向となるためには、どのような内容が必要になるのかについても整理する。	

4	委員	交通利便性について、評価の低い回答も高い回答も一定の割合で存在しており、それが年齢による違いなのか、住んでいる場所によって違うのか、交通空白地といったところが存在しているのか、評価が割れている理由についてあれば教えてほしい。	まち未来推進室
	事務局	山間部に住んでいる人は車がないと生活が不便である一方で、駅周辺に住んでいる人にとっては大阪方面に行きやすいと考えている。 ご指摘の通り公共交通機関が整備されていない「交通空白地」といった考え方もあり、交通利便性に関する意見については、住んでいる地域によって意見が分かれることが考えられる。また、近鉄沿線であることから、大阪のベッドタウンとして利便性が高いということだが、同じ大阪のベッドタウンである近隣の生駒市や三郷町と比べた場合は、平群町の方が地価が低いという評価になり、鉄道は単線である近鉄生駒線のみであることも利便性が低いというイメージになっていることが考えられる。車での大阪方面への交通利便性も低いと感じている人が多いと考えられる。	
	委員	平群町内や町周辺への移動についての利便性はどういう評価となっているのか。	
	事務局	南北の移動については、幹線道路の整備が進み、通行しやすい道路も多くなっているが、東西方向への移動については、狭い道が多く、アクセスしにくいところも多いのが現状である。	
5	委員	地域のボランティアからは、近年は町が汚くなってきているとの意見が挙がっている。	観光産業課
	事務局	自然を守るという観点からも、環境整備について引き続き努めていく。	
6	委員	メガソーラー計画のことが町内外で話題に上がっている。平群町は災害が少ないと言われているが、メガソーラーにより災害リスクが高くなるのではないかとという点で町民の関心が高くなっている。	住民生活課
	事務局	メガソーラーについては、環境への影響に対して町民の意識が高いことを町としても認識している。今後も事業者・県との協議を踏まえ、環境保全に努める。	
	所管課	メガソーラーの造成等については、調整池等の防災対策を講じて造成前と保水力が変わらないように奈良県からは厳しく防災対策等、審査されているところである。	
7	委員	町有の空地利用について課題である。南保育園跡地等の大きめの空地が有効利用されていない現状があり、町としてこれからどのように検討していくのか教えていただきたい。	政策推進課
	事務局	町有地の土地利用については、有効活用方策について、関係課とも連携しながら考えていく。	

8	委員	ふるさと納税について、金額が高いものが多く、寄付しにくいという意見があった。事業へのチャレンジをアピールするといったことも平群町では欠けている。また、品質についても課題である。	政策推進課
	事務局	庁内でも高額商品が多く魅力的な返礼品が不足していることを課題だと感じている。 これまで、全ての運営を町内で行っていたが、今年から事業者へ一部委託を行う。事業者の協力を得て、品数、商品開発をしていく。	
	所管課	更なる拡大を図るべく業務の委託を行い、現在、新規開拓及び新たな返礼品の拡充に取り組んでいる。	
9	委員	行財政が厳しいということだが、町職員について人員数が減ってきていると感じるが変化はないのか。	総務防災課
	事務局	一時期、採用を凍結していたが、最近の2年間では採用を行っている。5年前、10年前と比較すると減少している。	
	委員	災害時に対応する人員は確保できているのか。	
	事務局	令和4年は、新規人員は保育士等の専門職を中心に採用している。災害時対応についても町内在勤者や近隣在勤者を中心に対応できるように体制を整えている。	
	所管課	職員数は減少しているが、持続可能な財政運営と安定的な行政サービス提供のため適正な職員配置を行っている。災害時には状況に応じた動員体制を整え必要な人員は確保できている。	
10	委員	第6次総合計画の策定ために検討を進めているが、未来のことを見据えた議論がしたい。絵にかいた餅のような計画を作るのではなく、もう一步踏み込んで、実際に何をやるのか、みんなで議論しながら取り組んでいかなければならない。	まち未来推進室
	事務局	第一回検討委員会の際に報告した通り、継続事業と廃止事業がある。第6次総合計画ではこれまでの実施状況も踏まえ、精査し、策定を進めていきたい。	
11	委員	従来の計画で足りないと思うのが、福祉事業である。障がい者に対する支援等、平群町はサポートが弱いと感じる。平群町として具体的に何を実行するか、計画として示してほしい。	福祉こども課
	事務局	所管課と協議を重ねて、次回の委員会で改めて回答する。	
	所管課	現在福祉タクシー利用券や手話通訳者の設置等町独自のサービスを実施している。既存のサービスの充実及び事業の周知により利用啓発を図り、障がい者のサポートを図っていきたい。また、新規の独自事業については現時点では考えていない。今後サービス利用者の要望などにより専門職の配置、県や国への要望等も含め検討する。	

12	委員	“弱み・不足点”について自主防災の地域による意識の差とあるが、平群町では自主防災組織の結成率が高いことは“強み”である。“弱み”は、高齢化等の様々な問題により結成ができないことではないか。意識の差を単に弱みとするのではなく、検討していただきたい。	総務防災課
	事務局	所管課と協議を重ねて、次回の委員会で改めて回答する。	
	所管課	自主防災組織が結成されない自治会の課題を踏まえつつ共助の必要性を訴え、結成率を上げていきたい。 また、結成済みの自治会においても継続して活動ができるよう普及推進に努めていく。地域で継続して活動していただける「防災士」の資格取得育成の啓発もして参りたい。	
13	委員	「今後取り組むべき検討内容」で、「学校施設の規模の検討と整備」とあるが、学校を再編成するかもしれないということだったのか。	教育委員会
	事務局	再編成とは言っていない。この10年間での取り組みにおいて規模を検証していくということで理解いただきたい。	
	所管課	少子化の影響もあり、小・中学校の児童・生徒数の動向を注視しており、それを踏まえて、町全体の学校施設の在り方や施設の老朽化・長寿命化などの課題への対応、厳しい町財政状況の中で検討していく方針等に基づき、計画的で効率的な整備を進めていくことが必要だと考えている。	
14	委員	障がい者福祉の項目について、先日の3月定例議会で「手話言語条例」が新たに制定されたため、内容に盛り込んでいただきたい。	福祉こども課
	事務局	手話言語条例の件についても、この10年間のどのように取り組みを進めていくのか、関係課と協議し、次回の委員会で示す。	
	所管課	手話言語条例制定前から手話通訳者設置事業・手話通訳者等派遣事業等を行っている。この条例を契機として更に職員研修・小学校などの教育現場での手話講習、事業所へのチラシ配布等によりろう者や手話等の理解の周知・啓発を図る。	
15	委員	町内における危険性の高い空き家について把握しているか。	都市建設課
	事務局	そのような物件については「特定空き家」として認定し、2～3件認定済みであると関係課より聞いている。	
	所管課	現在、職員により町内全域の空き家実態調査を随時行っており、その実態把握に努めている。また、倒壊の恐れがあるような危険な建物については、平群町空き家等の適正管理に関する条例に基づく平群町空き家等対策協議会で、特定空き家に認定するか否かについて、協議をしている。	

16	委員	道路の整備や道路沿いの雑草の除去等細かいところではあるが気を配っていく必要があると考えている。10年後に平群に戻って来ようと思えるように、良いところは活かし、悪いところは改善していく必要がある。	
	事務局	所管課に伝える。	
	所管課	道路沿いの除草は町としての維持管理のほか、地域住民にも町から依頼をして除草活動を行っている区域がある。地域住民の高齢化も進み、今後の町道維持管理におけるマンパワーの減少は課題である。	
17	委員	「行財政運営・社会潮流」について、“スマート自治体への転換(AI・RPA)”とあるが、現在RPAに携わっているため、聞いてもらえればと思う。	政策推進課
	事務局	機会があればご協力いただきたいと考えている。	
	所管課	デジタル専門の職員を7月1日付けで採用し、平群町でもデジタル化の構築に向けたDX推進計画策定の取り組みを進めていく。	

- ・AI …人工知能
- ・RPA…ロボティック・プロセス・オートメーションの略。PC上で行う業務をロボットで自動化するテクノロジーのこと。PCやクラウド上で動くソフトウェア。(人型ロボットとは違う。)
- ・DX…行政サービスについて、デジタル技術やデータ、AI等を活用することにより、住民の利便性の向上や業務の効率化を図り、行政サービスの更なる向上につなげること。※ここでは自治体DXとして説明。